

最終活動報告書

報告者氏名: 仲村 美知代 所属:大分市立下郡小学校 記録日:2014年2月14日

【対象児(群)の情報】

○学年 特別支援学級(自閉症・情緒)在籍 小学6年生 男児

○障害名 広汎性発達障害・ADHD

○障害と困難の状況

・読むことには大きな困りはないが、漢字を書くこと、文章を書くことが苦手。(話したいことを話すことはいつまでも話し続けているが、質問に答えたり、文章を書いたりすることが苦手。単語で答えることが多い。漢字を読むことには大きな困りはないが、漢字を書くことが苦手。)

・できない、わからないといらいらして怒りっぽくなる。(憶えていることが難しいため(ワーキングメモリーが低い)、授業中指示されたことがわからなかったり、注意集中の時間が短く不器用さもあるため、板書したり自分で思っているように課題をできずいらいらしてしまう。)

・体を支える力が弱く、姿勢が悪くなりがち。長く座っていることができない。

【活動目的】

○当初のねらい

自分の苦手なことを補う方法を獲得することで、自分でも「できる!」と自信をもつことができる。 ○実施期間

2013年4月～現在

○実施者

仲村 美知代

○実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児の変化】【活動内容と対象児(群)の変化】

○対象児の事前の状況

・国語のテストでは文を読んだり、読み取りはできるが、漢字を書くことが苦手。書き写すときにも、ひらがなで書くことが多かった。漢字で書くように指示しても「めんどくさい」と答える。

・作文は、書くことの苦手さもあるが、何を書いていいかわからないことが多い。

・姿勢が悪いことが、体幹の弱さから来ているため、動作法や運動を進めてきたが「めんどくさい」となかなか続かなかった。

○活動の具体的内容

・4月～6月にかけては、対象児が教室に来ないこともあり、iPadに慣れるという意味で、家庭訪問をして担任も一緒にいろいろなアプリを試した。「写真をとる」「ネットで調べる」「漢字ドリル」「日本地図」「支払い検定」「ゲーム」など。

・話題を見つけて文を書き、伝えることを目的にして、毎日、メールのやり取りを行った。

①定型文を示して、それにそって文章をつくり、送信する

②写真の添付の方法を知らせ、写真を添付した文をメールさせる。

・国語の「パンフレットをつくろう」「伝えにくいことを伝える」の単元で、好きなゲームのソフトについての紹介を、『ロイロノート』のアプリで写真にコメントをつけるという方法で行う。

その後、修学旅行のまとめも同じ方法で行い、より長い文章を書けるようにしていく。

・漢字については、読むことは学年相当の漢字を読むことができるが、書くことが苦手なので『大辞林』アプリを使って、「読み検索」や「手書きツール」を利用して漢字を調べて書く練習を一緒におこなった。

・週3回くらい、補助教員の先生に心理リハビリテーション(動作法)をにしてもらっているが、始める前の立ち姿とその後の姿を写真でとって比べて姿勢の違いを知らせた。

○対象児(群)の事後の変化

*メールの内容の変化

4月21日 髪斬りにいった (原文)

4月23日 本買った

5月10日 今日はゲームした。

・単文のメールが多かった。毎日続け、担任が返信を忘れていると、「返事がこない」とメールをくれることもあった。。写真の撮り方を学校で一緒にして、写真を添付できるようにした。

・夏休み中も毎日届いていた。

8月13日

今日、三重に行きました。

まず、トライアルに行きました。

トライアルで、すれ違いが、7人来ました。

2日も休むな???????????? (担任の返信がないことに対して)

2月21日

宇目はまだ雪が積もっていました。夜がとても寒いです。氷点下でした。

2月23日

今日は制服を作りに行きました。iPadの充電がなくて写真が撮れませんでした。(担任の写真を送ってくださいに答えて)

*プリントなどに答えを書くときに、わからない漢字があるとすぐに大辞林のアプリで調べている。

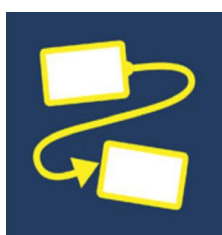
使い始めのころには、ひらがなで検索して、辞書の意味を確かめて漢字を拡大させて書かせていた。慣れてくると、読める漢字が多いので、ひらがなで検索して予測変換として出てくる文字の中から選んで書くことが多い。同音異義語など特別な場合には、辞書で意味も調べている。読めない漢字を調べる時には、手書きツールで調べているが、書く場所が狭く本人も不器用なためなかなか思うように結果を得られないこともある。そういった時には、筆順辞典アプリを使っている。このアプリのよいところは、「口」を3画で書かなくて一筆で「〇」で書

いても予測漢字がいくつか示されることで、本児の記憶の中に知っている漢字があると速く探すことができる。



*紹介文を書く

「写真を撮る→写真に説明をつける」という繰り返しで、



「僕のDSソフトの歴史」という題で作成した。

家でソフトの写真を撮り、その日のメールに添付して担任に送るということを何度か繰り返した。その後、ロイロノートを使って写真を取り込んで、その写真に説明を付けるという方法でまとめた。説明の文は、写真を見ることで、持っているソフトロイロノートについてなんらかのコメントを述べるので、「ラスボス(最後のボス)が弱かった」「これが最初に買ったやつ」など、それらのつぶやきの中から、コメントとして写真につけるものを

選ぶようにさせた。

修学旅行後には、体験発表を同じやり方で行った。写真は、担任の撮ったたくさんの写真の中から、「吉野ヶ里遺跡」「原爆資料館」「お昼」など、一緒にふり返った項目ごとに選び、写真に短いコメントをつけていった。ロイロノートを使って友だちに修学旅行の発表をした。好評だったため、嬉しそうにしていた。

そのコメントをつなげることで、卒業文集の作文もまとめることができた。

スライドの中の一枚



【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

・担任へのメールは、宿題として定着している。はじめは、定型文にそって短い作文を送るという内容だったが、最近は、日課表が解らないときには聞いたり、雪が降ったときには雪の写真とそれにコメントをつけたり、「伝いたいことを伝える」内容になっている。担任からの質問にも、返信することが増えてきている。また、12月まで担当してくれていた児童支援の先生に、時々メールを送ったりしている。
・「書くことが解らないから、作文は書かない。」と嫌がっていたが、メールや修学旅行のまとめで自信をつけ、一人で短い文を書くようになった。

転校する友だちへの手紙など、これまで書かないことが多かったが、自分からカードを持ってきて「かかんといけん。(書かないといけない)」と取り組むようになった。

・中学校への「自分のことを知らせるカード」を書く活動では、漢字で表記すべきと思った文字はすべて調べて書いていた。一画一画丁寧に書くとしごく時間がかかるが、「修学旅行」などひらがなで平気で書いていたことを思うと、成長を感じる。漢字は、iPadを使えば書けるとわかって、漢字を書く活動を嫌がって怒ったりすることがなくなり一人で調べて書くようになった。

・自分の姿をモニターすることについては、運動会の組体操の様子を写真にとり、練習のたびに見せることで、自分のがんばっている姿を自分で認められるようになって行った。体が大きいので一番下で支えることが多かった。それまでは体に土が付くことだけでもいやがっていたが、「がんばらないといけない。」「かっこよくきめたい」と思うようになっていった。ちょうど引っ越しをして通学時間がそれまで往復10分だったのが、1時間近くかかるようになり体幹がしっかりしてきた。まっすぐ立てるようになり、動作法も素直に受けるようになった。

○エビデンス

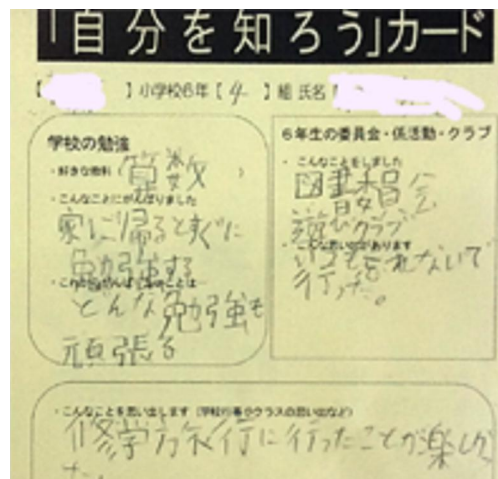
・メールの相手が担任だけだったのに、自分で伝えたいことを伝えたい人にメールするという様子が見られるようになってきている。写真に対するコメントも、つけられるようになった。

・修学旅行の事前学習やまとめなど、解らないことはすぐに調べる様子がみられるようになった。

・いらいらして、怒ることがなくなった。わからないことがあると、すぐにiPadを出して調べるようになった。

○今後の見通し

・指示されたことをすぐに忘れていたり、メモすべき時に間に合わなかったりすることが多い。自分でも「すぐメモしないと忘れる。メモ帳がいる。」とつぶやく。写真にとったり、音声に保存できたらいいと考えて、使い方も練習したりした。しかし、「いつもiPadを持っている」ことができないために、自分の「アイテム」(便利な道具)として活用するまでにいたらなかった。家庭では、iPadを使ってイライラせずに文を



書いたりする様子から保護者も本児にとって将来を考えた時に必要なものだと強く思ったそうである。中学校入学に向けて本人用のiPadを購入してくれることになった。入学後に必要なアプリなどを一緒に考えていきたい。

・保護者と本人と中学校に行き、校長先生にiPadの使用をお願いした。本人の「あると安心。」がどんな場面で、どう利用できるかこれから相談していく。担任の先生が、iPadを使っていないので、本児の学習の様子を小学校にきて見てもらう予定。入学後もメールでつながっていききたい。また、中学校の中でも、得意な先生に相談できるようにつないでいききたい。